

平成28年第3回多文化共生を進める団体交流会 議事概要

日時：平成28年7月19日（月）

午後7時～8時50分

場所：名古屋国際センター第一研修室

1 テーマ：子どもの教育について

【話題提供】林敏博氏：名古屋国際センター海外児童生徒教育相談員、元名古屋市立小学校校長

- ・日本語教育を必要とする児童生徒が愛知県は日本一多い。
- ・名古屋市立の小学校 135/263 校に日本語教育を必要とする児童が在籍（52%）
- ・名古屋市立の中学校 55/110 校に日本語教育を必要とする児童が在籍（50%）
- ・集中している学校もあるが、多くの学校に「散在」している現状がある。
- ・名古屋市教育委員会の施策の説明。

2 話し合い

- ・今日のような集まりが重要。議事録を教育委員会にも見せてほしい。
- ・教員1人1人が言語を学習し、子どもたちに対応することも必要。
- ・教員の仕事量が多いことが1番の問題。
- ・学校は自分たちで抱え込もうとするが、今こそNPOなど民間の力を活用すべき。
- ・夏休みに、学校で日本語集中教室を行うとよい。助かる子がたくさんいる。
- ・教員の国際理解教育に対する知識、経験不足がある。知識や経験のある人を配置してほしい。→日本語学校や国際理解教育の知識等がある教員が配置されることが多い。
- ・取り出しや初期集中に入れるかどうかの判断が、担任判断になっていないか。統一的なテストなど基準がない。せめて複数で判定して欲しい。
- ・日本語ゼロの初期段階では、母語話者が教えるのが効率がよい。しかし、そのようになっていない。
- ・子どものメンタルの問題について、学校に早期に対応してほしい。重症化してからでは遅い。
- ・愛知県国際交流協会と学校、ボランティアとの連携について小牧市で行った。名古屋市でも行うとよい。「外国人児童生徒教育関係者研修会」
- ・未就学児の日本語教育が進んでいない。
- ・外国人児童で発達障害がある子が見逃されることがある。障害が分かっても支援につなげてもらえない。学校にできることがある。
- ・(外国人参加者から)親子の間で、言葉の壁ができて、コミュニケーションができない。情報を知ることができない。コミュニティの中で孤立してしまっている。
- ・思春期の子どもの扱い方について、外国人保護者が学べない。セミナーがあっても、日本語なので外国人は参加しない。

- ・非行、障害、お金、教育、虐待、子どものことで保護者が関わらないことはないが、親ではケアしきれない現状がある。みんなで関心を持って支えあうことが必要だ。
- ・不登校は外国人児童生徒に多いのでは？ 実態把握しているか知りたい。
- ・外国人学校の実態も把握する必要がある。

3 次回のテーマ

- ・未就学児
- ・貧困
- ・給食
- ・労働

上記のテーマから決定する。